

おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

平成30(2018)年
4月号
通巻572号
毎月23日発行
(題字 矢追日聖)

★発行日 平成30年4月23日
★発行所 大倭出版局
〒631-0042 奈良市大倭町1の12
☎(0742)44-0015
★印刷 大倭印刷 監
★定価 1部 250円
年間購読料3,000円(送料共)
★郵便振替 01050-6-67002
大倭出版局
URL <http://www.ohyamoto.jp>



川内(せんだい)原発の見える久見崎海岸を大喜びで走るフク 熊本県水俣市 高倉敦子さん撮影(文・4頁)

再録 昭和42(1967)年10月23日発行『すさのお』第13号より

手をむすびあう宗教の場を — 座談会(下)

法主様を囲んで瑞光院にて

法主 矢追日聖(満55歳)

出席者

西辻誠二
合田佳三郎

戸田忠好

柴地則之

司会

編集部(平谷照子)

大倭に話し合いの場を

西辻 そうですなあ、そういう話し合いの場として進んでいけたらいいなあと思ってる。具体的にどう思っているわけでもないけれど、前に一ぺん言っておられましたなあ、祭壇を作った必要な時は開け、必要のない時は閉めて、と……。

わしらも山岸会の行き方を、すべて良いとは思ってない、物足らんところがありませんわ。それで、いつでも言うことや、納豆のねばりのないみみなどところがある。あれだけでは物足りんものがある。だから何や、あれまでかということ、そんなものは道徳の話聞いたようなものでなあ(笑)。これまでか、はい、これまでということ、も一つ何やしらひつばる魅力がないですね。

だけど、また別な魅力というものもあるのですわ。山岸会独特の雰囲気というものかな。

わしは大倭のことについては何も論ずる資格はないけれど、わしの感じたことを言うと、話し合いをすれば解決することでも、そういう話し合いがないためにうまくいかないというものがありません。だから山岸会で行っている研鑽という行き方をとり入れるというこはいいこ

とやと思う。

そして理論的に行くところはそうしていったらいいし、行けん場合は霊界で(笑)と、両方で行ったらいいと思いますね。大倭教がこうで、山岸会がこれやなかったらいかんというところは何もないのやから、いいか悪いか試しながらしていったらいいと思うな。そんなことで会館を建てることは大いに喜んでるわけやけど。何も神さん、祭りはつたらええがな(笑)。

大倭の神さんは何ちゆう神さんか知らんけれど(笑)、おそらく密教で言う大日如来、法華経で言う久遠の本仏、そういうものやと思うんです。そこで、仏教の話をするやけど、キリスト教の話をするやけど、それでいいと思う。

仏教流で言えばキリストも観音という見方です。いや、これはわしの見方やで。あれは、あのユダヤという土地、そこにあらわれた宇宙の理の働きの結果に出てきたものでな、観音というのは山岸会で言うたら、調正作用やな。

神議り^{はか}

合田 世の中にはね、神道、仏教こうした宗教というものを理解できる者と、できん者どがあるようでね。だから、理解できる人はなるべく理解したらよいと思いますな。そういう気持のある人は、どんどんこうした話し合いに加わってもいいわけですから。

しかし、考えてみると、宗教を理解できる者が日本の全人口の何パーセントあるかなあ。そういうこと時々思うんやが。一段さがって説教を聞くだけでなしに、たしかに研鑽するという行き方はいいことやと思います。それでみんなが幸せにいきける道を求めていけばいいんじゃないか。

法主 それがね、ほんとの意味での宗教の形態です。たとえばずっと後になってから形のできた神道においても、祝詞一つを見ても、神集いに集い給い、神議りに議り給いと言うんですな。人間一人一人を神と見て、みんながお互いに集まって、神議りに議り給いということは、あれは研鑽のことです。

だから山岸会でしていることは「神議り」なんです。神道的な言葉を使って、そこに少し神秘を加味してくると、「みそぎ」になってしまいます。ですから、日本神道でもそれは昔から行われていたことですがね。

柴地 法主さん、その神議りなんですが、議るとは、どういうことか。法主さんの説明ですよ、今抜けましたから、僕が代わりに言うんですけれど(笑)。

研で自分の分量をはかることなんです。だから、私はこれだけ、自分の分量はこれと、はかりながら持ち場を決めることなんです、そこで、集い集いて神議りして、一緒にやっついこうやないかという事です。ですから、議るということは、話し合いということと、自分の分量をはかるということなんです。

西辻 なるほど。自分の持ち味を知ることです。はあ、さよか。

柴地 そこに「はかる」ということの深さがあるわけです。

法主 議という漢字をつかって、「はかる」と読ましているところに意味のちよつと深いところがあるのです。だから、自分の持ち味、つまり自分の柄、大きさ、器をまず知ってそれをお互いに出し合います。いえば研鑽ですね。仏教的にいえば悟りです。

西辻 自分を知ることです。

法主 そうです。ね、悟ったもんなら、千人寄つてもめつたに喧嘩にはならんわけです。自分で自分を知っているんだから、あいつが大きいとか、わしは小さいとかいう優劣感や劣等感を持つ必要もないわけです。そうしたもの、時代がさがるほど宗教も本質的なものから遠ざかってきたということになるでしょう。

西辻 宗教企業になりさがらんような宗教が望ましいですな、とにかく。宗教家が金や権力にタツチすると、まちがいを起こし易うなるんではないか。

法主 まあ、いいことはないな。

西辻 大倭あたりでも、そこから離れておられるから、言いたいことも言えるし、金を持つてくる信者はいらんのやから案にいけるんやないかと思うな。

柴地 でも、まあ、大倭もいろんなことがありま

すから、そう一がいには言えませんが、西辻 ほんとに、言いたいことを言おうと思えば、日常そうせねばいかんが、それではな、衆生済度できん場合があるわな。そこにはいろんな、その時、その時に応じてやっついかなあかんことあると思う。

これからの宗教

法主 まあ、これからの宗教というのは、また昔にもどつて、お互いに自分で自分をはかるとか、悟るとかいうような行き方をする、そういうところで方向づけたいものです。そうなつてくると、それをできる場所がないといかんです。

西辻 そうです。

法主 宗教団体として、今、形のできているものは、多分に本質的な宗教の道からはずれているよ

うに思えます。今の時代に宗派・教派を問題にすることがおかしいんで、そこから脱してこなければいけないんですがね。

だから、私は大倭へ来られる人にも話すんですよ。キリスト教の信者であるとか、自分は仏教徒の何宗であるとか言われても、それは、ちょうど着ているものと一緒で好き好きがあります。洋服の好きな人もおれば、和服の好きな人もおる。どんな形のものをお身に付けていたとしても、それは衣装ですね。剥いてしまつたら中身は同じ裸なんだから、キリスト教であろうと、教派神道であろうと、仏教徒であっても、それにこだわらずに宗教の本質的なものをつかんでいくように、とね。

結論は洋服を着ている者、和服を着ている者、皆が話し合つて仲良くしていくことですね。

西辻 そういうことですね。

法主 平たく言えばね。

西辻 まあ、仲良くするということよなこと一つについても、これは宗教の本質からはずれてないことよと思うが。

法主 それが、宗教の本質ですよ。教派とか宗派とかあの状態そのものが、すでに宗教の本質から離れているのです。

現在の宗教を見た場合に、いろんな宗旨があつて、そこへ自分が所属している。たとえば、どこそこの信者ですとなると、自分の所属している宗教が唯一絶対のようになり勝ちです。お互いにそう思っているんです。

別に思うことはかまわないですよ。信仰なんだから、それくらい信頼できたなら結構なんだけれど、しかし度が過ぎると、それ以外の宗教に対して偏見ができたりして、何か自分のものをよくするため、それ以外のものを低く見るというようになるが、一つの宗教に入ったがために出てくる場合

があるんです。

それが、まあ、いわゆる宗教我^がというものでしょうね。仏教でも我をとれ、我をとれと教えながら、こうして一つの宗教団体に入ること、その宗教我という垢をつけてしまうんです。

西辻 そうですね。

法主 だから、宗派・教派を重んじることが、本当の宗教の姿でないということを、まず認識する必要がありますね。

仏教が好きで、仏教によつて安心^{あんじん}を得られる人はそれで結構なんです。しかし、今の時代、お寺を通した仏教とか、坊さんを通した仏教では、少々、垢がつきすぎると思うんです。だから、それを一歩超えたもの、これは仏教だけなしにキリスト教であっても、神道であっても同じことですよ。

そういうお互いの宗教を持ちながら、宗教の根源にさかのぼつて、宗派・教派という壁をとつてしまつて仲良く協力していくというような行き方が必要ではないかと思うのです。大倭に会館をこしらえるというの、そういうところをねらつていけるわけですが。

西辻 私達の願いも、そういうような願いですね、会館ができるということについては。

法主 それをここで、大倭教という古くさい垢のついたような名前のうち出しているんですが、そうしながら、いろんな人が来ることで、大倭教という名は名でも、あれは普通の宗教とちがうのだという認識を持つてもらふことも、現代の人の宗教に対する固定観念を浄化させる方法だと思ひますね。

これを、全然、名称を変えてしまつて「〇〇」などというようなことをしなくても、古くさい大倭教で出発して、看板は看板でもあの中は現代的

だと言われるように、中から改造したいと思うわけですね。

仏教では、よく獅子身中の虫というけれど、それが虫でなしに、腹の中に入つて薬の役をしていく、それが必要ですね。人々の宗教に対する見方がいやだから逃げるというのではなしに、そこにとび込んで入つて、内部から浄化していく、まあ、そんなところです。

宗教界に新風を

合田 最近のお寺といえば、死んだ時にお経を唱えてもらうだけが役目な。しかし、それだけでは残念だから、その場を、「つどい」の場にするとかね。

法主 各宗派の大きな建物を、みんなが宗派・教派を超越して人の寄る場にきりかえてくれたら、これからの宗教界全体に新風を入れることになるけどな。

西辻 そうです。

合田 まあ、そういう意味で、法主さんおっしゃったように、一つ毛色の変つた案がいいと思ひますね。今さら名を変えて、どうということはない(笑)。

法主 二十年、この名できてるんですから。

合田 私達も、そういうことにも魅力を感じて来てるんです。

法主 しかし、大倭教と名前を聞くだけで、いやる人もあるよ。

西辻 そうですか。私はもともと宗教臭いものが好きだから、何教言われても別に何ともないし、内容をちよつとのぞいて、気がむいたら直ぐ行く方が。普通の人は、宗教と言えば、古くさい、そういうものと思うんでしょうな。

柴地 それがね、西辻さん、古くさい宗教だったら生命力がないから、まだそう怖いことはないんです。ところがね、新興宗教とかね、こういう目のつりあがった宗教があるんでね。

僕ら、最初、大倭教と聞いた時、これはえらいこつちや、えらいところへ来たなあと思いましたよ。それでね、僕は宗教嫌いとか、他の宗教に理解がありますかとか聞きましてね。

西辻 あやまんはなれ(笑)。

柴地 そんなんでしたからね、新興宗教で大倭教と聞いただけで、これは、目のつり上がった人の集まりやと、こら、ハラをくくってやらんと下手をしたらやられるなあ、と思いました。

西辻 そう、わしらかて、新興宗教に行く時には、あんたと同じ気持や。宗教は好きやけど、目のつり上がった奴になあ、何やかや言われたらかなんなあと思いますね。

柴地 それで、そういう固定観念があるので、それがほぐされた時は大きいわけですね。始めには、期待持たなかったし、わからなかったし、こちらには逆の思いがありましたしね。それがそうでないとかかった時には、かえっておもしろい気持ちになりました。

だから法主さんが言われるように、宗教という名で、パツと出て行くのも、いいなあ。

西辻 そこへもって、山岸会みたいな入口があったて、宗教研鑽というような一つの場をもって、事実即して本当に好きな者同士が寄って、靈魂の問題というようなものも究明していく「場」やね、そういうものがあってもいいわけですね。

法主 そう、そうです。

西辻 何も嫌いなものは来んでもいいんやから、好きなものは来たらしい。わしらかて、いたって幽霊の話や、そんなことは好きや。ほんまに、あ

んなこと話したり聞いたりすることが好きやからな(笑)。

合田 一週間、寝起きを共にして、霊なら霊の問題について考えたら、或る程度わかるんじゃないかと思いますが。

法主 まあ、一週間あればね。

合田 そこで、徹底的に話し合ってみたらね。

表紙写真によせて

そしてまた石牟礼道子さんを偲んで

高倉敦子

2011年の東日本大震災後初の定期点検のため、鹿児島県薩摩川内市久見崎町にある川内原子力発電所1、2号機が運転を停止した。その時いち早く動いたのが日本山妙法寺の命の行進。南無妙法蓮華経のお題目と団扇太鼓で、全国の原発を巡りご祈念をしながらのピースウォークに、微力ながら何度かサポートをさせていただいたことがある。

最初の年は玄海原発から川内原発への移動の途中のお宿を提供。いっしょに歩いて川内原発ゲート前に座り込んだこともある。3・11の後に関東から九州に避難してきた友人カップルとともに暮らしているのがメス犬のフク。あれは2014年の7月の命の行進だった。カンカン照りのゲート前、コンクリートの上での長時間の座り込みは犬の身には過酷だったに違いないがよく耐えた。終わってすぐ近くの海岸まで行くことになった。

そこはウミガメの産卵地でもあり、かつては海水浴場としても賑わったという景勝地。停止していることで温排水が減ったため海の生物が蘇っていると、現地の観察員の人が説明して下さった。稼働していた頃の浜は貝の死骸でいっぱいだったが、ストップしているおかげで命が戻ってきてい

西辻 専門研鑽会を持ったらしいわけやわな。そやけれど一番とつき易いのは、山岸会のような入口や。あれなら誰にでもあてはまるんで、そこから、だんだん奥深いことをやられたらいいんやから。

編集部 今日はいろいろと、ありがとうございまして。 昭四十二・九・二七 文責・編集部

熊本県水俣市

ると、それは嬉しそうに語られた。浜に寄せる波まで喜んでいような気がしてほっとしたこと覚えてる。友人が首についてるひもを解いた途端にフクが跳ね上がってすごい勢いで浜を蹴っていく、まるでバネのように全身が喜んでいその姿に、思わずカメラを向けたのが表紙の写真。

このまま再稼働はありえないと、多くの仲間が祈りをもとにしてきたが、2013年7月に国が定めた新規制基準に基づく審査を経て、虚しくも2015年8月と9月にそれぞれ再稼働した。現知事は脱原発を掲げ、推進してきた元知事を破って当選したはずだが、一番乗りとなった。

*

海には海の命がある。その潮が引くように2018年2月10日午前3時、作家である石牟礼道子さん(私は詩人ですと言われるが)が90歳であちらに還られた。縁あって水俣に暮らすことになり伴侶ができた時、そのお祝いに道子さんからいただいたのが四角い木のお盆とお椀が5つ。そのお椀には大きな花びらが丸く描かれていて、多分これは蓮の花。子どもが生まれ家族が増えて、毎朝の食卓にお椀が4つ、味噌汁になって登場し続けとうとう38年目。すっかり絵柄は煤けているが、

我が家ではこれが道子さんである。今思えば、「水俣病の運動をやるのはとっても大事だが、家庭のこともちゃんとやらねばね」という親心だったのではと、思えてくる。

2月10日朝、訃報を聞いてやおら本棚に向かう。確かいただいた新装版の文庫本『苦界浄土』があったはず。これは14年前、水俣湾埋立地での新作能「不知火」の奉納公演の前に出版されたもので、それに向けて実行委員会が立ち上がり私もメンバーのひとりだったが、その会の集まりの席で道子さんが全員にご自分の名前を入れて手渡されたものである。しかし探せど無い。この日息子・草児は予てより、胎児性水俣病患者らの共同作業所「ほっとはうす」での講話を頼まれていて、帰りにお花をいただいて帰ってくる。まるでお供えに思え、仕事場に飾った。

2月11日、建国記念日に新聞第一面トップに計報。12日、熊本市の真宗寺で近親者による葬儀、「花を奉るの辞」が読み上げられる。13日はなんと朝から真つ白な雪。お花に突然白い小さな透き通った蝶がとまっている。こんな寒い中、いったいどこから来たのか。14日、仕事中突然胸にこみあげてくる。15日、夢に7年前に亡くなった母が出てくる。16日旧暦元旦、いつもお世話になっている近所の方が突然豆餅をついたからと持ってきて下さる。

長いこと水俣の甘夏みかんを買って下さっている東京のTさんからは「さぞかし石牟礼さんが亡くなられて皆さんお悲しみでしょう」とお悔やみの電話が入る。彼女は高尾山の自然を守る活動を長くされていた方で、強いご縁を以前から感じていた。道子さんにはやっぱり赤い椿の花が似合いますねとおっしゃって、どこか一角に椿の苗木を植えられてはどうでしょうと提案して下さい。共

感し、苗木を探しにいかなくてはと行動開始。24日、水俣の水源のひとつである大森の湧水を汲みに行く。3月3日、椿の苗を植える。

3月10日、夢に作家の田口ランディさんが出てくる。11日、東北大震災の慰霊の日、田口さんが東京早稲田大学講堂で東北と道子さんへの追悼講演。この日は道子さんの誕生日でもある。私は夢の中で山の中のお寺に行きお経を書いている人たちに会わされる。

15日、突然「苦界浄土」が見つかる。私の祖父が57歳で亡くなる前「高尾山に行きたい」と言っていたとよく父から聞かされたものだが、タイムリング良くその高尾山の近くに住むという青年がみかんの収穫の助っ人に現れた。祖父が秩父の三峰神社に勤めていたことから狼信仰、山犬の話へとつながり、彼に紹介しようと秩父の本（雲取山小屋日記）を本棚から抜き出した途端、その陰に「苦界浄土」発見。

16日、不知火海の新あおさを食べたなら香りが素晴らしい。17日朝方、魚屋でもないのに魚の注文が来る夢で目が覚めた。18日、漂流する船に乗っている夢、船を動かしているのは男性のようで白いその背中を思わず抱きしめて目が覚める。しばらく後になってこの背中は私自身であることに気がついた。

この日は道子さんの追悼展をやっているというので久しぶりに水俣病資料館へ。階段の途中に小道を見つけると足が勝手にそちらへ。あ、アコウの木！ からむように赤い椿が咲いている。以前水俣で賑栄い塾をやった時、この場所へ皆さんをご案内したことがあるのを思い出す。山の湧き水を汲んで運び海に注いだのだった。資料館に入って道子さんを偲ぶコーナーへと行くと、一連の新聞報道が各社ごとにファイルされている

た。その中に夫が取材を受けたらしく、こんな記事を見つけた。

【チツソ水俣病患者連盟の高倉史朗事務局長（66）。水俣病センター「相思社」（水俣市）の職員として、1970年代から故川本輝夫さんとともに水俣病患者救済運動に取り組んだ。石牟礼さんは活動を応援しよう和高倉さんらに水田を提供。自宅に招いて手料理を振舞うこともあった。「偉大な文学者だったが、自分たちにとっては命と健康を守ってくれる母親的存在でもあった。優しさにあふれていた。水俣病問題を語れる人をまた一人失った。寂しく、残念」と肩を落とした】

（毎日新聞3月11日掲載記事）
夫が道子さんを母親的存在と感じていたことをここで初めて知った。

資料館にお勤めのKさんが説明に来てこう言われた。「最近問合わせが増えているんですよ。展示をリニューアルするにあたりなんとかこの石牟礼さんの展示ができました。『苦界浄土』を自ら朗読、ありし日の声をここにくると聴くことができます。そして直筆の原稿を見ることができ、その展示予定でしたがパネルだけは常設することになりました」と。そういう彼も、私がいつも水を汲みにいく大森地区の出身。

湧水は絶えることなく川となり水俣湾に注ぎ続けて海の浄化を担ってくれている。まるで道子さんみたいである。肉体が無くなるということが不在ではないことを法主さんから教えていただいている。つまりどこにいても会えるのだから、これからはもっと自由に道子さんと行き来できるはず。そう思うと悲しいより嬉しく、感謝である。

「水俣のもやい直しが終わったらん」と道子さんが言ってくる。全くその通りだと思っている。これからはあちらから、どんどん大いなる母力で檄

人それぞれの「味の世界」

大倭・多次元宇宙世界に触れて

静岡市 宮城島 豊

今から30年前、私は東京・西荻窪のプラサード書店で購入した野草社の『80年代』25号を新幹線の中で読み始めた。数分後、口絵写真にあった大倭神宮の磐座に目が吸い寄せられ、思わず「生きている」とつぶやいた。私がそれまで出会った磐座は単に遺跡として存在するものが多かったが、神宮の磐座はまるで心臓が鼓動しているようにエネルギーを放ち、この世とあの世の接点であると同時に宇宙のあらゆる情報が得られる図書館のように感じられた。一体、この磐座はどこにあり、どうしたら遭えるのだろうか。是非、遭いたいものだと思いつつ数日その写真を眺めた後、巻末に記載された編集部に電話した。対応された方から「どうせなら月次祭に併せて来られたらどうですか」とのお返事を頂いた。この電話が石垣雅設さんとの今に続く縁の始まりであった。

を飛ばしていただきたい。
(追記)
原稿終わったところでなんと、我が家にチワワのオス犬、ポンタ(9歳)が突如やって来た。千葉に住む89歳の義母が入院し、お願いしますという流れは想定外。惟神は忙しい。

そして指折り数えた月次祭当日、かの磐座は圧倒的な存在感を漂わせて杜の中に鎮座していた。磐座の前で行われた祭典で法主さんが唱えた祝詞はよく聞き取れなかったが、すぐに驚くべきことが起こったのです。磐座の上の空間が歪み、そこに巨大な奇稻田姫が現われ、私に向かい手招きしたのである。しかし、いくら手招きされたからといって、その意味するところが分からないので、取り敢えず、「否」の意思表示を手で示した。月次祭後の法主さんとお話しの内容は全く覚えていないが、私は翌年の人事異動で福祉事務所勤務を命じられた。あの時、否々の意思表示をしたことが原因かと思いつつも、公務員である以上、従うしかなかった。3年後、法主さんに「福祉事務所勤務はもう卒業していいですよ」と確認の意味で尋ねると「まだや言うところだ」とつれない返事を頂き、都合、6年務めることとなった。

さて、当時30歳前後の私が何故、大倭を訪ねることになったのか。それは20歳の時、突然、この世とあの世の境が消え去り、大倭で言うところの顕幽不二の状態となり、肉体の五感では覚知しえない世界が私の日常生活に入り込んできたことに由来したのです。その異様な世界から脱却する方法を求め、私はあちらこちらの団体を訪ね歩きまわした。その中の一つ、心霊科学協会の統一会で今の妻に示された最初の霊示が「矢は放たれた」で、まさに「ことむけやはす」だったのです。そこで、当時の妻の日記をお読みいただければ、私達の置かれた状況が少しはご理解いただけるのではない、ここに転載します。(内容は妻の体に宿ることになる長男の魂とのやりとりです)

◎プロローグ《夢》

ある晩、不思議な夢を見た。果てしない広がりを見せる荒野の只中に一本の巨大な樹が天に向か

って立っている。風もないのにポトリと実の落ちるとき、遠い空の果てから大きな翼をもった鳥が現われた。地上に実の落ちようとするまさにその瞬間、鳥はさっとその実をくちばしでくわえて大空に飛び去ってしまった。実が微笑んでいる。柔らかな肌触りをしたその暖かさがまだ残っているような手の平を朝の光の中に透かしながらわけもなく、そのような思いに捉われていた。子供の頃聞いた昔話の記憶が、意識の奥から呼び覚まされ、幻想的な世界に私を誘ったのだろうか。もしたならば微かに微笑んでいるかのように優しげな夢の実がまるで生命ある赤子の肌を感じさせるほどリアルだったのは何故だろう。もしかして、あの実は生命の樹に結ばれた私達の子供ではないのだろうか。そんな荒唐無稽なメルヘンを信じる気持ちになったのは夢の持つ不思議な力のせいであった。

◎天よりの贈り物 — 甘き果実 —

夢の予告が現実になったのは、それから暫くしてからのことである。秋立つ風が頬に感じられる宵、甘い香りを放つ夢の実が12人の使徒によって私達のもとに運ばれた。その夜、私達の部屋は秋風に乗って霞たなびく天の国の扉の前に運ばれた。どこからともなく甘い水蜜桃の匂い。部屋の光が輝き、天使達が私達のもとに翼を休めると、かつて大鳥が運んだ小さな果実がその手の中にあつた。辺りを包む静寂の中にかくわしい香りと妙なる音楽が高く低く流れてゆく。天使達の無垢な微笑み。その顔は手にした果実のように優しい産毛で覆われ、ピンクの頬がうっすら上気している。差し出されたかいなから私達のもとに果実が手渡されたとき、部屋は光に満ち、その生命の降下を祝してくれたのである。

◎胎児は語る — いずこより来たりしか —

僕らにとって大切なことは、よく眠れること。ママのお腹の中が住み心地良いベッドルームだと僕は幸せです。何故なら、お腹の中は僕達の故郷に似て平和と愛情の国だからです。僕はママのお腹に宿る前、この故郷にいます。大抵、何百年もこの世界で過ごし、来るべき地上生活を選び取る日まで花々の間で楽しい時を夢見るのです。ある時、僕はパパやママのいる世界をスクリーンで見せられます。僕達の世界では全く意味のないお金や地位や名誉を追い求める人々。そんな人達の間で本当の天の意図を実行しようとする僕らの先輩達。10年、20年と歳月が過ぎ行くうちにそうした先輩達も天の国の住人やこの故郷のことを忘れ、重い塵や芥に魂の輝きを失くしてしまうものようになります。そんな地上での修養を選ぶか、この故郷での安らぎを選ぶか、二つに一つの選択を迫られるのです。

多くの仲間から離れ、地上生活を選んだ魂は、やがて宿るべき親を与えられ、地上降下の時と場所を決定されます。その後、知恵や勇氣、博愛や意志といった心を魂にプログラミングされ、その本来の目的を果たすべき肉体を与えられるのです。このように僕達は自由な意志と神様の意図に沿って環境や境遇を選び、新しい寄生木の中に住みゆく日を静かに待っています。僕の場合もそうでした。――以上

*

このような日常生活を送っていた私達が、大倭へ導かれることは必然だったでしょう。そして、私が接していた存在達が伝える「神」の概念は一般に言われているものとは著しく異なっていました。古事記、日本書紀に記述され、神社に祀られているのは人格霊で神ではない。神とは宇宙、自然、生命を司っている存在であるというのが私の

背後が伝える情報でした。さらに私には神霊は光の玉として視えますが、子供達にはドラエモンの姿を借りたり、宗教を信じている人には彼らが馴染んでいる姿を取ることが多いようです。ですから、法主さんが述べる世界は合点がいき、しっかりと馴染むことが出来ました。そんな私でも「神武東遷の真実」や「伊勢神宮の本体」に関するお話しは、「よく数十年前にこんな内容をお話したなられたな」という驚きがありました。毎朝、私は大倭大國魂大神様にご挨拶しますが、実際に大倭を訪れるのは12月の日聖祭ぐらいです。それでも折々に大倭のご神霊や法主さんの気配を感じますし、妻などはより具体的に交流しているようです。最近も次のようなお伝えがありました。

◎法主さんより

皆さん、御機嫌ようです。お元気にしておられますのが、何よりです。こちらの世界も、ちと長くなりました。そちらの世界に、たんびたんび出向いてはおりますが、気づく人と気づかぬ人と色とりどりです。生前、皆さんには、お世話になった方もおれば、お世話させて貰った方も沢山こちらに來られてよもやま話しの相手をさせて貰っておりますが、はてさて、そちらの世界も今年が一つの節目じゃと申されておる神々様よりのお言葉、繋げる者を西に東に配置してあれば、たまには様子を見に行つてやってくれよと申されますので、朝な夕なのお拜礼、ご挨拶がてら、この者、あの者、ちつとお邪魔いたしております。

若い人は活気あふれておりまして、やる気も熱気も火のように芒々とこちらの世界からも燃え上がって見える靈気となって立ち上っております。そこに水を掛けると蒸気となって、よい湯加減のように感じられますので、たまには水も掛けねばなりません。例えて言っておるのではなく、靈気

とは、のように目に見えて暖かく、時にはひんやりと体と心と靈体を冷やすものでもあります。つれづれの活動、一つひとつは点のように感じても、自分の力は世を動かす力ではないと感じても時と場と人を集めれば、やがて点は線となり立体となり、時の重なりを得て、歴史ともなります。自分が生きたということは、すなわち、そういうことじゃと悟れよと神様のお心、伝えて下されよ。歴史を創るのは為政者ではなく、世を生きる一人ひとり人の心、そこに靈人の思いが共にあることを知ってください。

まだまだ、のんびりと茶をすすむわけにはいかんのかと思っているわけの今日この頃でございます。また、そちらにたんびたんび参ります。よろしくどうぞ、お願い致します。日聖

*

普段は気配を感じる程度ですが、意識を向けるとこのようなお伝えが流れてきます。

さて、現在の私が切に願っていることは、一人でも多くの方が『やわらぎの黙示』『ながそねの息吹』を繰り返し読み返しお読みになり、日々の生活を少しづつ「顕幽不二」を基盤としたものにしていただければというものです。では今年の日聖祭でお会いすることを心待ちにしてペンを置きます。

いぼれずみ

編集部 岸野 春子

私の場合、法主様の人格を信じるということが先にあつた。その法主様の靈界の話だけがだめとは思えない。それでも昔の『おおよまと』を読み返すと、私は何度も本当に靈界はあるのかと法主様に尋ねている。宮城島さんの話は興味深く読ませて頂いた。ただ「法主さんより」はすぐく心地悪い。法主様の言葉の肉声風の味に違和感があつて……言葉でなく意味で捉えることかな。

あじさい日記

3月11日 祝会。

3月15日 大倭神宮月次祭。

3月17日 午前11時から大倭会館で「あじさいの箱」懇親会。

大倭安宿苑の施設概要について常務理事の矢追明昌さんから説明を受け、ケアハウスや特養については質問が活発。また且田容子さんの中学からの友人関田夏江さんの前向きな生き方のお話やハーモニカ、参加者全員の一言。自分とあじさいの箱の今後の活動に向け充電しました。
3月18日 交流の家で、午後、FIWC定例委員会。
その後、水俣病センター相思

社による「交流の家で考える“ハンセン病と水俣病”座談会」が行われました。中学3年生で水俣病を発症、就職差別に遭い知人を頼って奈良で就職・結婚し青春時代をおくったという生駒秀夫さんが、御所市人権センターで講演、また思い出の地をたどる旅をされたのだそうです。交流の家、大倭会館に一泊。

一行の皆さんは、今号4頁の高倉敦子さんとは親しい仲。しかし別のルートで交流の家を知ったらしく、双方、このご縁にびっくりしていました。
3月23日 大倭大本宮月次祭。この日は昭和40年3月の法話をお聞きしました。
3月24日 午後6時から大倭会館で大倭町の自治会総会と第24期(平成30・31年度)の役員会議が開かれました。

3月27日 午後5時から教務本庁で本紙編集会議。新聞に未掲載の法話がまだかなり残っていることが分かりました。
3月31日 拝殿庇の床板がいたんできたので表面処理工事が始まりまりました。専門的にはプライマー塗装・ガラス塗装工事だそうです。
4月6日 大倭神宮月次祭。夜7時から大倭会館において邑倭の会が開かれました。
4月8日 午前11時から大倭大本宮拝殿で須佐緒祭が行われました。拝殿庇での園遊会が恒例ですが、寒い日で大倭会館に場所を移しました。第2日曜日なので祝会が行われると思いきや多村和人さん(奈良県天理市)が初めて来邑、須佐緒祭に参加。厳格な菜食主義だそうで食べられる物を選んだ上ですが皆さんと交流。

また祝会常連の別所りかさん(大阪府枚方市)も祝会開始時刻に來られ、春日作太郎さん(東京都八王子市、大倭会館泊)や残っていた人達とゆっくり過ごす流れになりました。卒業・入学 中村篤夢君が高校卒業で社会人に。中島雀人ちゃん(幼稚園入園。中島由愛ちゃん・三原橙吾君が小学校へ、中島慶英君・宮本翔琉君が中学校へ、中島智英君が高校へ、それぞれ入学。邑人や邑育ちの関係者の孫世代の動きです。
3月20日 小雨の中、午前10時半より大倭墓地において慰霊祭を執り行いました。
(菅原園)
3月29日 玄関前の桜が満開、桜吹雪を眺めながら昼食。
(須加宮寮)
4月10日 4名が買物会でイズミヤへ行きました。
(長曾根寮)
3月22日(特養)誕生会で11名(内喜寿・傘寿・卒寿の方が1名ずつ)のお祝い。
3月24日(デイサービス)特養と合同でこの1年間のボランティア感謝会。この日のために練習したハンドベル演奏と踊り、職員によるマジックショー・二人羽織等を披露しました。
(茂毛路園)
4月1日 茂毛路園創立10周年。昼食は皆様が驚かれるほどのご馳走で、午後からはカラオケ大会を開催しました。
(八重垣園)
3月28・29日 桜の花も早く満開になり、お花見を堪能。

第338回大倭会文化行事

日本樹木保護協会代表樹医 山本光二さん宅(山満造園)をお訪ねする

日にち 平成30年5月20日(日) 雨天決行

集合 京阪私市駅改札口 午前11時20分

交通 近鉄学園前駅10時4分三宮行(快速急行)⇒10時25分鶴橋駅着、JR鶴橋駅10時30分に乗り換え10時38分京橋駅下車。徒歩にて京阪電車に乗り換え、10時47分出町柳行(特急)で枚方駅11時1分着、京阪交野線に乗り換え、11時5分私市行で終点、私市駅11時19分着

行程 私市駅前のお店でゆっくり昼食。徒歩15分、13時半に山本光二さん(樹医山野忠彦氏の後継者)宅にて交流会(約1時間)。当日どしどし質問受け付けます!ご参加お待ちしております。

連絡先 李章根 090-9041-8634

こだまこだま

岡山県真庭市 湯浅芳郎

今、岡山県北部は桜が満開です。わが村(合併して今は真庭市美甘)は隠れた桜の名所。桜を訪ねる玄人が三々五々訪れています。かつての小生の一句「桜咲き小さな村を膨らます」というところ。いつか来てください。



新庄川沿いの宿場桜 我が愛車と。撮影日30年4月4日

あんない

*月次祭(大倭神宮)

5月6日(日) 午後2時より大倭神宮にて。

*大倭会主催第592回祝会
5月13日(日) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

*月次祭(大倭神宮)

5月15日(火) 午後2時より大倭神宮にて。

*月次祭(大本宮)

5月23日(水) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。